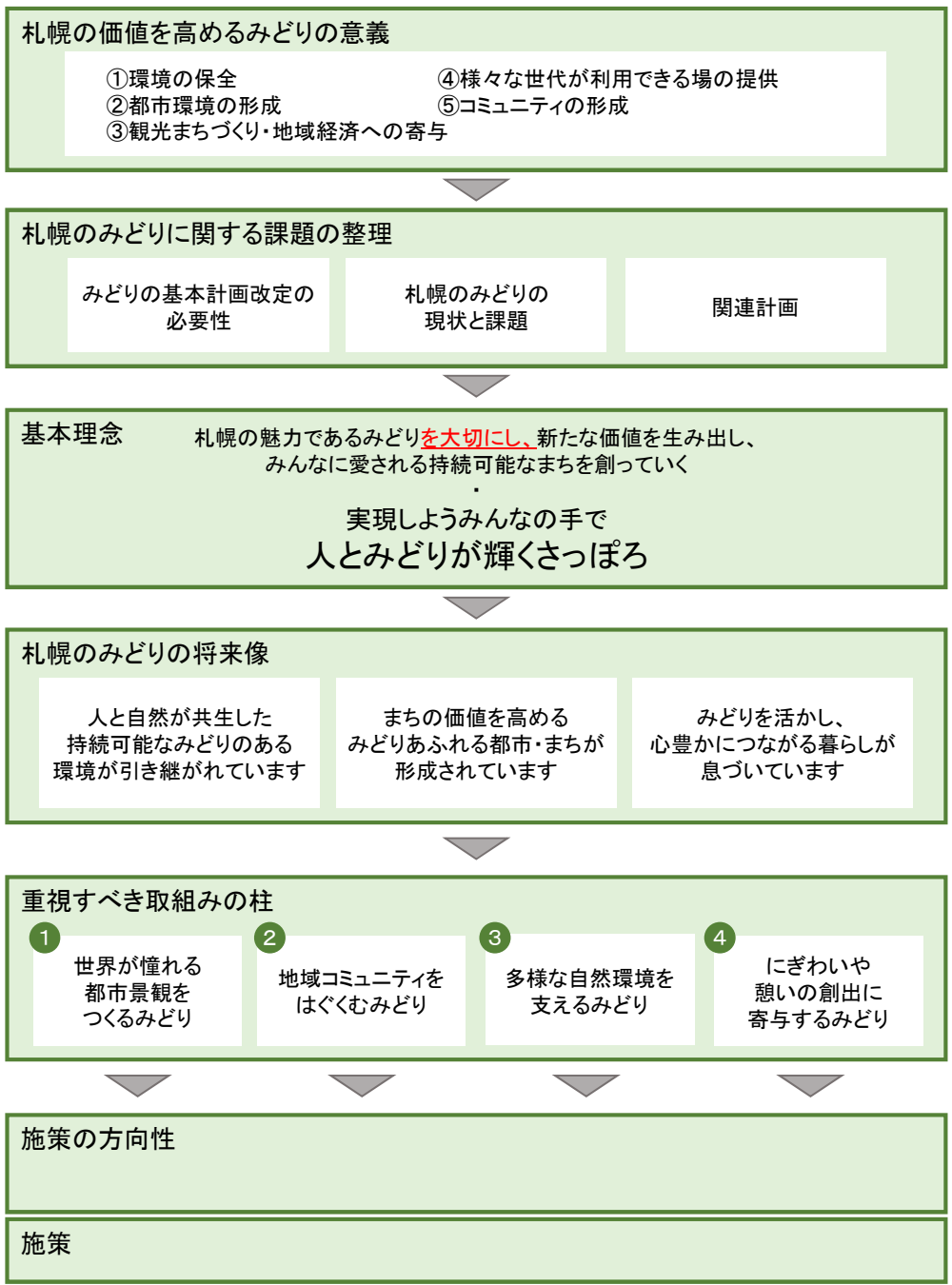


第4次札幌市みどりの基本計画の策定について

■第4次札幌市みどりの基本計画の構成(案)



⇒P1
⇒P2
⇒P3
⇒P3
⇒P4
⇒P5,6

■札幌の価値を高めるみどりの意義(案)

みどりは、市民が生活していくうえで欠かすことのできない重要な役割を持っています。良好な都市空間の形成や人と人とのつながり、それらによってもたらされる賑わいなど札幌の価値を高めるみどりの意義を、本計画を検討するうえで普遍的なものと捉え、以下に整理します。

自然・環境	<p>①環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の保全 CO2の吸収・固定による地球温暖化防止や森林の涵養機能による水資源の保全などに役立ちます。 ・自然環境の保全 生物の生息・生育空間となり、生物多様性の保全に寄与します。
都市・まち	<p>②都市環境の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市景観の形成 都心や住宅地において公園やオープンスペース、街路樹や並木などの樹木によって、うるおいや安らぎを得られる景観を形成します。 ・札幌らしい景観の形成 手稲山や藻岩山などの山並みや、豊平川などの川のある風景、北海道大学の並木や農場の風景、ハルニシなどの樹木のある街並みなど、札幌らしい景観を形成し、市民一人ひとりの原風景を形づくります。 ・都市環境の改善 気温・湿度の調整、日陰の提供など快適な都市環境を形成します。 ・防災力の向上 土壌保全・土砂災害防止機能、水源の涵養、雨水の浸透などの役割を果たし、地域の防災力を向上するとともに、災害時においては一次避難場所となります。
ひと	<p>③観光まちづくり・地域経済への寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光まちづくりへの寄与 大通公園や中島公園など、まちのシンボルとなっている大きな公園の特色のあるみどりは、まちのブランド化や観光まちづくりの促進に寄与します。 ・地域経済の活性化 大通公園をはじめとした公園や自然歩道、並木などが様々なイベントや賑わい創出の拠点となり、地域経済の活性化に寄与します。
ひと	<p>④様々な世代が利用できる場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康推進の場の提供 スポーツや健康づくりなどの場となり、健康な身体づくりや精神的な豊かさをもたらします。 ・自然とのふれあいの場の提供 人と自然とのふれあいの場を提供し、自然の恵みによるうるおいや安らぎを享受することができます。 ・子育ての場の提供 子どもの遊び場だけでなく、身体づくりやコミュニケーションの促進に寄与し、また親子の居場所を提供します。 ・環境教育の場の提供 自然観察や自然学習など、自然に触れ合いながら体験学ぶことができる、情操学習や環境学習の場となります。 ・まちづくり活動の場の提供 花植え、清掃、みどりの手入れなど、気軽に参加できる身近なまちづくり活動の場となります。
ひと	<p>⑤コミュニティの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの形成 公園やオープンスペースは様々な地域活動やイベントの場となり、地域交流や多世代交流の促進に寄与します。 ・シビックプライドの形成 梅雨のない爽やかな夏や積雪の多い冬など北国らしい季節や歴史・風土がもたらす景観において札幌らしさを感じることで、市民のまちに対する愛着を育みます。

■札幌のみどりに関する課題の整理

みどりの基本計画
改定の必要性

ア. 社会情勢の変化

- ①人口減少社会を迎え都市の拡大から縮小へ社会情勢が変化
- ②オープンスペースは、量の拡大から今ある施設の有効活用にシフト
- ③人口減少が進み、財政面等の制約が深刻化

イ. 市民ニーズの多様化

- ①より使いやすいみどりのオープンスペースへの転換
- ②賑わいを創出するオープンスペースの要望
- ③都心部の再開発等による美しい街並みとみどりの調和
- ④老朽化施設への効果的な対応策
- ⑤経済的豊かさだけではなく精神的豊かさの向上

ウ. 国の新たな制度への対応

- 平成29年(2017年)5月「都市緑地法等の一部を改正する法律」公布
- ・緑地保全・緑化推進法人(みどり法人)制度の拡充
 - ・市民緑地認定制度の創設 / ・緑化地域制度の改正
 - ・緑地の定義への農地の明記 / ・緑の基本計画の記載事項の追加

札幌のみどりの現状と課題

【札幌のみどりの現状と課題】

- 都心のみどり
 - ・公共施設の緑化や民間施設の緑化を促すなど、みどりの量と価値の向上を図り、都心部の魅力や活力向上につなげる必要がある
 - ・みどりは文化的意味合いも含むもので歴史や景観といった視点が必要
 - ・みどりによって都市価値が高まることの共通認識が必要
 - ・みどりの効果や効用について研究機関と共同で示すなど、市民や民間事業者の理解を高める活動が必要
 - ・民間施設の建設にあわせみどりのオープンスペースの確保
 - ・民有地の緑化率の向上が必要
 - ・民有地のみどりの維持が必要
 - ・公共施設のさらなる緑化が必要
 - ・緑化行政だけでなく様々な法制度と連携した取組が必要
 - ・街路樹の伐採時は周知と説明が必要
 - ・街路樹による緑量の多い道路景観を維持するための方策が必要
- 市街地のみどり
 - ・民有地の緑化率の向上が必要
 - ・民有地のみどりの維持のノウハウが必要
 - ・まちづくりの観点からみどりの価値を高め、活用につなげる方策が必要
 - ・緑化行政だけでなく様々な法制度と連動した取組が必要
 - ・「使いやすい」みどりが必要
 - ・街路樹の伐採時は周知と説明が必要
 - ・街路樹の危険木への対応とみどりが豊かだと感じられる街並みの形成が必要
- 多様な主体とみどり
 - ・ボランティアリーダー等の育成や、多様な主体が継続的に活動できる方策が必要
 - ・子育て世代など若い世代がみどりに関わる機会の提供
 - ・高齢者や子育て世代の立場に立ったニーズの把握や機会の提供
 - ・多様な主体によるみどりづくりの取組や新たな方策が必要

- 郊外のみどり
 - ・近郊の森に親しむ人のすそ野の拡大が必要
 - ・「市民の森」など民有林の継続的な利用を図るための体制や制度の見直しが必要
 - ・近郊の森に対する利用ニーズの多様化やオーバーユースへの対策が必要
 - ・郊外のみどりの質を高める必要がある
 - ・森林の保全や活用をより計画的に推進することが必要
 - ・生物多様性に対する意識の向上が必要
 - ・市民生活に影響を及ぼす野生鳥獣の対策が必要
 - ・特定外来生物や指定外来種への適切な対応が必要
- 都市公園のみどり
 - ・都市公園の地域的偏りの改善が必要
 - ・膨大な数の老朽化した公園施設への対応が必要
 - ・多様なニーズに応じる使いやすい公園づくりのための民間との連携が必要
 - ・公園の利活用に民間の活力を導入することが必要
 - ・観光や都市景観の向上に資する公園の活用や整備が必要
 - ・公園の特性に応じた安全安心して遊べる場が必要
 - ・乳幼児が安全安心して遊べる場が必要
- 札幌らしいみどり
 - ・「長い冬」を考えたみどりの活用が必要
 - ・短い夏を屋外で楽しむ暮らしを支える公園使用やみどりの活用が必要
 - ・藻岩山や豊平川など、自然環境の活用が必要
 - ・モエレ沼公園など他にはない札幌の特徴を活かすことが必要
 - ・気候風土に合った草花や植物による、地域性のある景観づくりが必要
 - ・身近に自然があることを活かした暮らし方や生き物との関わりに対する考え方を育てていくことが必要

【中間評価の結果 (伸び悩んでいる項目と達成に向けた視点)】

- ・みどりづくりに参加した市民の割合が低い
 - ⇒ 交流の場の提供、活動のリーダーの育成
- ・都心部樹林率が低い
 - ⇒ 街路樹のポリウムアップ、民間開発や公共施設の緑化
- ・森林の保全活動に参加した市民の割合が低い
 - ⇒ 森林レクリエーションなど環境教育
- ・公園機能の見直しを図った公園が少ない
 - ⇒ セットで整備する公園数の増、施設の更新に並行した取組、時代背景に合わせた公園施設見直し

【緑の審議会での議論のポイント】

- 第3次計画の達成状況の把握と反映
- 計画の構成について
 - ・全体に関わるものと個別に関わるものを分けるべき。
 - ・様々な主体のそれぞれの関わり方を整理すべき。
- 計画策定にあたり、目的の明確化が必要
- 理念について
 - ・新たな価値よりも「みどりを大切にすること」が基本にある。
 - ・戦略ビジョンと将来像とのつながりがみえるようにするべき。
- みどりの質について
 - ・みどりの質を見ていくという提案が必要。
 - ・みどりの質についての市民の評価の深堀りが必要。
 - 環境首都・札幌を踏まえた位置づけが弱い。
 - 地球環境の保護と身近なみどりの将来像が合致するとよい。
 - 人口減少社会に対応した表現があるとよい。
 - 耕作放棄地は生物にとって重要であるため、他部局と連携した検討が必要。
 - 都市計画区域内における農地面積が減少しており、多様なみどりの創出につながっていない。
 - 生物多様性を強く打ち出し、部局調整し取組を追加すべき。
- 都心のみどりについて
 - ・特に公共施設のみどりの議論ができるような整理が必要。
 - ・民有地のみどりについて本計画でどこまで言及するか明確にすべき。
 - ・民有地のみどりの維持管理方針も位置付けたほうがよい。
 - ・緑被率向上に向けた管理方法やノウハウの継承が必要。
 - ・民間施設の建設にあわせみどりのオープンスペースの理想像の明確化が必要。
- 市民参加について
 - ・将来的ニーズに基づいた機能特化(子育て世代の意見の反映)が必要。
 - ・市民ニーズを具体的に整理する必要がある。
 - ・みどりの維持・みどりづくりの人をつなげていくことの必要性を記載すべき。
 - ・市民ボランティアの役割や輪の広がり見えるような表現がよい。
 - ・ボランティアの意見を反映する仕組みの検討が必要。
 - ・みどりの活動に興味を持つ方への情報発信の仕方の検討が必要。
 - ・公園の維持管理にも若い世代の参加が必要。
 - 他部局と調整し、みどりの基本計画で扱う事項の議論が必要。
 - 札幌らしさが伝わるようなかみ砕いた表現にすべき。

【札幌市まちづくり戦略ビジョン】

目指すべき都市像 ・北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち ・互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち	分野・重要な視点 ◆ 地域 ◆ 経済 ◆ 子ども若者 ◆ 安心安全 ◆ 文化	「環境」の基本目標 ・豊かな自然と共生するまちにします
	◆ 環境 次世代へつなげる持続可能なまちづくり ◆ 都市空間 魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり	「都市空間」の基本目標 ・札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします ・都市の価値を高めるみどりを活かしたまちにします
◆関連計画 ・さっぽろ都心まちづくり戦略 ・札幌市都市計画マスタープラン ・さっぽろヒグマ基本計画 ・生物多様性さっぽろビジョン ・札幌市景観計画 ・第2次札幌市環境基本計画 ・札幌市温暖化対策推進計画 ・さっぽろ都市農業ビジョン ・札幌市第2次都心まちづくり計画 ・さっぽろ障がい者プラン など		

関連計画

■基本理念(案)

札幌のみどりにおいて大切な理念を以下のように掲げます。

これまで守り育ててきたみどりを継続して大切に引き継ぎ、さらに、その価値を高めるよう積極的に活用するといった新たな視点を加え、より魅力的な札幌を創造し、未来につなげていくことを表現しています。

札幌の魅力であるみどりを大切にし、新たな価値を生み出し、
みんなに愛される持続可能なまちを創っていく

実現しようみんなの手で
人とみどりが輝くさっぽろ

「新たな価値を生み出すことよりも、みどりを大切にすることの方が先ではないか」という意見を反映し、修正しました。

■札幌のみどりの将来像(案)

札幌の価値を高めるみどりの意義、札幌のみどりに関する課題、基本理念(案)をふまえ、本計画で目指す「札幌のみどりの将来像(案)」を以下のように設定します。

「自然・環境」「都市・まち」「ひと」の3つの視点は密接に関係しており、各将来像の実現に向けて取り組むことで、持続可能性が相乗的に高まります。

自然・環境

人と自然が共生した持続可能なみどりのある環境が引き継がれています

- ◆みどりをもつ大気汚染物の吸着や二酸化炭素の吸収源などの役割によって、地球環境の改善につながっています。
- ◆多様な生物の生育、育成空間となるみどりのネットワークが形成され、人と自然が共生したみどりのある環境が後世に引き継がれています。

都市・まち

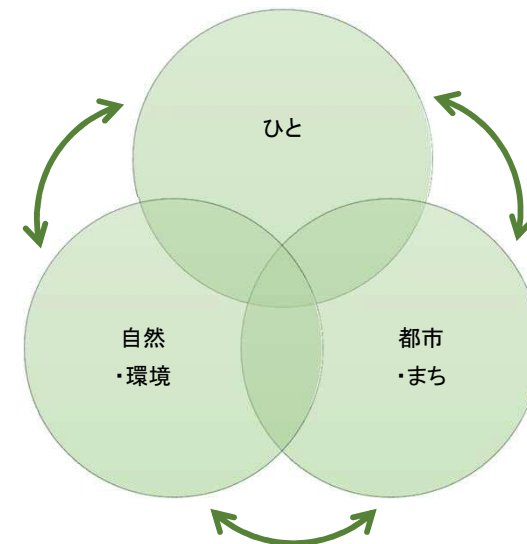
まちの価値を高めるみどりあふれるまちが形成されています

- ◆山並みや河川、公園など様々なみどりによって、ゆとりと安らぎを感じられる札幌らしい景観が、市民一人ひとりの原風景を形成しています。
- ◆まちなかのみどりが、都市環境を改善するとともに、地域防災力を向上し、快適で安心安全なまちとなっています。
- ◆札幌を象徴する公園や自然など気軽に触れ合えるみどりが、にぎわいの創出拠点として積極的に活用され、経済振興や観光振興が図られています。

ひと

みどりを活かし、心豊かにつながる暮らしが息づいています

- ◆みどり豊かなオープンスペースは、多世代の市民が集い、遊びや学び、交流の場として活用され、コミュニティの形成に役立っています。
- ◆札幌らしいみどりが、人々の生活に溶け込み、まちへの愛着を持った心豊かで魅力的な暮らしが息づいています。



将来像の3つの視点の関係イメージ

「まちづくり戦略ビジョンと将来像のつながりが分かりにくい」という意見を参考に、戦略ビジョンから文言を引用しています。

まちづくり戦略ビジョンの目指すべき都市像

- ・北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち
- ・互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

■重視すべき取組の柱

「人口減少社会に対応した表現があると良い」という意見を参考にしています。

近年、札幌においても、都市の成熟期を迎え、人口減少社会の到来や少子高齢化の進行に伴う税収減や社会保障関係費の増大などが懸念されています。そのなかで、課題すべてに投資し、取組んでいくことは困難であると考えられます。限られた財源の中で効果的に事業を展開し質を高めていくために、重点的に取組む分野を「選択」と「集中」の観点から考え方を明らかにし、実効性の高い計画づくりを進めていきます。

【札幌市まちづくり戦略ビジョン】

目指すべき都市像

- ・北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち
- ・互いに手を携へ、心豊かにつながる共生のまち

分野・重要な視点

- ◆**地域**
- ◆**経済**
- ◆**安心・安全**
- ◆**文化**

◆子ども・若者 将来を担う子ども・若者の健やかな育み

◆環境 次世代へつなげる持続可能なまちづくり

◆都市空間 魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり

- ・安心して子どもを生み育てられるまちにします
- ・将来を担う子どもの成長と自立を支えるまちにします
- ・豊かな自然と共生するまちにします
- ・札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします
- ・都市の価値を高めるみどりを活かしたまちにします

【背景となる札幌の社会動向】

- ・人口減少化社会の到来、少子高齢化
- ・市民自治の担い手減少
- ・世界都市としての外国人来訪者の近年の増加
- ・コンパクトなまちづくり
- ・市民ニーズの多様化、精神的豊かさへの希求
- ・札幌の魅力としての「緑が多く自然が豊か」という評価
- ・北海道新幹線の札幌延伸、冬季オリンピック等の開催招致

重視すべき取組の柱

1 世界が憧れる都市景観をつくるみどり

「まちづくり戦略ビジョンと将来像のつながりが分かりにくい」という意見を参考に、戦略ビジョンの言葉を引用しています。

【背景】

- ▶人口減少や高齢化社会の進行、環境問題などに対応し、新たな都市の創成期におけるまちづくりが求められる。また、都市基盤の老朽化が進んでいることから人口動向や年齢構成の変化に応じた見直しが必要である。
- ▶また「都心部のみどりが豊かであると感じている市民の割合」は75.5%であるが、都心部の樹林率は公共施設の建設などによって目標値(H22:8.9%→H27:9.1%(目標は10.0%))を達していないため、都心部の開発等と合わせたみどりの量と価値の向上が求められる。

【さっぽろのまちづくりでの現状】

- ▶札幌市都市計画マスタープランでは、都市づくり全体の目標として、「コンパクトな都市」や「札幌らしいライフスタイルが実現できる都市」などを掲げ、都心、地域交流拠点、住宅地などの区分に分け、取り組みの方向性を示している。
- ▶都心は、「みどりが感じられ、低炭素化の進んだ都心の形成」が掲げられており、さらに北海道新幹線の延伸や冬季オリンピック・パラリンピックの開催招致を契機に、大きく街並みが変化することが予想される。
- ▶また、地下鉄駅周辺などの利便性が高く、地域の豊かな生活を支える中心的役割を担う「地域交流拠点」は、「にぎわい・交流が生まれる場の創出」を掲げている。

【みどりの基本計画での位置付け】

- ▶みどりが十分ではない都心部において、良好な都市景観の形成に向けた事業を重点的に展開し、開発と合わせた質の高いみどりづくりを推進していく。
- ▶また、今後都心とあわせて、積極的にまちづくりが取り組まれる拠点において、みどりやオープンスペースを取り込んだ景観形成についても検討する。

3 多様な自然環境を支えるみどり

【背景】

- ▶札幌市の森林面積の割合は60%以上と市域の非常に大きな部分を占めている。郊外の農地は、札幌らしい景観の形成や伝統作物である札幌黄などの生産の場となっている。しかし、都市化による農地の減少や近郊の森との関わりの低迷などの課題があります。
- 森林だけでなく、河川や都市緑地、農地などは多様な生物の生息・育成空間となっており、生物多様性の観点から保全が求められる。

【さっぽろのまちづくりでの現状】

- ▶第2次札幌市環境基本計画では、目指すべき将来像の実現に向けた施策の方向を「5つの柱」として示し、その一つに「都市と自然が調和した自然共生社会の実現」が掲げられている。

【みどりの基本計画での位置付け】

- ▶森林や郊外の農地は、地球環境や生物多様性、景観形成の観点から重要であることから、自然環境の保全に資する事業を展開する。

2 地域コミュニティをはぐくむみどり

【背景】

- ▶少子化が進むなかで、社会全体で協力して住み良い地域をつくり、誰もが子どもを生み育てやすい環境を整えていく必要がある。また、超高齢化社会の到来を見据え、障がいの有無にかかわらず、誰もが社会に参加できる環境を整えていく必要がある。
- ▶支援や見守りの必要な単身高齢者の増加が予測されるなか、地域コミュニティの中核を担う町内会の加入率は、年々低下している。

【さっぽろのまちづくりでの現状】

- ▶札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、重要な視点に「地域での支えあいとつながりづくり」や「安心して暮らせる「人にやさしい」まちづくり」、「将来を担う子ども・若者の健やかな育み」が位置づけられ、町内会などの地域コミュニティの活性化や、誰もが安全で快適に移動できる空間の整備を進めていくことが重要とされている。また、子育てに関しては、生きる力を養い、豊かな創造力をはぐくむ自立した教育を推進することや、社会性をはぐくむ実践的な学びの機会を充実させていくことが重要とされている。

【みどりの基本計画での位置付け】

- ▶人口構造の変化等に伴い公園などの利用形態も変化していることから、地域のニーズ等に合わせた公園機能の再編や再整備、みどりづくりに取り組んでいく。
- ▶公園や森林など身近なみどりは、子どもの成長や学びの場として、また、高齢者が健康づくりや憩いの場として、みどりや自然に親しむ場であることから、今あるみどりを多様な世代が利用できる機会を積極的に作り、地域コミュニティの活性化を図っていく。

4 にぎわいや憩いの創出に寄与するみどり

「札幌らしさが伝わるような噛み砕いた表現にすべき」という意見を参考にしています。

【背景】

- ▶札幌市は年間約1,400万人もの観光客が訪れる国内有数の観光都市であり、都市の魅力が高めるためには、公園や緑地が持つ良好な景観、にぎわいや憩いといったポテンシャルを活用する必要がある。

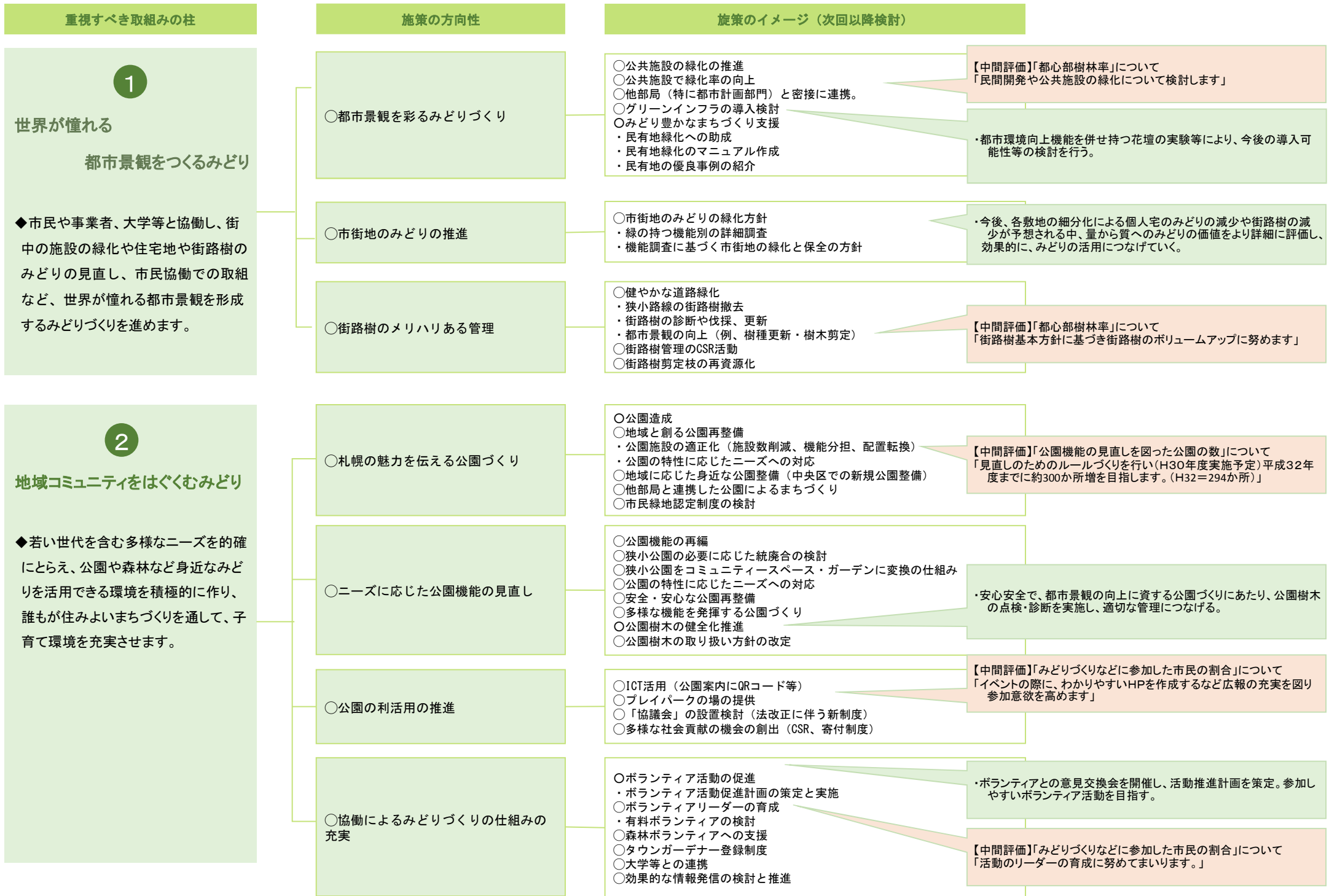
【さっぽろのまちづくりでの現状】

- ▶札幌まちづくり戦略ビジョンでは、豊かなみどりを充実させることで、国内外から多くの人が訪れる都心を、札幌の顔となる魅力と活力あふれる場とするほか、市街地では都市の価値を高める憩いや交流の場としていくことを目指している。

【みどりの基本計画での位置付け】

- ▶札幌の魅力高め、発信していくために、都心や拠点、公園を活かした様々な取組みを進める。
- ▶札幌の魅力として、寒暖差がもたらす色鮮やかな花、アウトドアでの暮らしの楽しみ、美しい雪景色などがあり、これらを活かした魅力づくりに関する事業を重点的に展開する。

■施策の体系(案)



■施策の体系(案)

重視すべき取組みの柱

3

多様な自然環境を支えるみどり

◆生物の生息・生育空間となっている森林や農地を保全するとともに、新たな利活用の推進を図ります。

施策の方向性

○持続的な森林保全・活用

○地球環境や生物多様性に配慮したみどりの保全

○郊外のみどりの保全

○資源の有効活用

施策のイメージ (次回以降検討)

○みどり資源の保全推進
 ・都市環境林の取得
 ・主要な都市環境林の管理計画を策定
 ・都市環境林の新たな活用（レクリエーション機能）手法の検討
 ・自然歩道のあり方を検討
 ○森林の保全方針検討
 ○森林環境譲与税に係る事業の実施
 ○様々な世代が気軽に参加できる森づくり体験の実施
 ○企業、団体など多様な主体との協働による森づくり

【中間評価】「森林保全活動に参加した市民の割合」について「森林レクリエーションを通じて森林保全の裾野を広げるため、アンケート等実態把握と、新たな施策を検討します」

・法改正に伴う新制度として創設された「森林環境譲与税」の運用

【中間評価】「森林保全活動に参加した市民の割合」について「親子での参加を促すなど広報活動の充実を図ります」⇒H30年から親子の森づくり(育樹)体験ツアーを開始する予定。

○さけ科学館の運営
 ○札幌市環境保全アドバイザーの派遣、学習会や観察会を実施
 ○野生生物との付き合い方に関する普及啓発
 ○造園工事における特定外来生物の適切な処理

○農地の保全と活用
 ・遊休農地の利活用の促進
 ・市街化区域内及び周辺農地の活用

○落ち葉の堆肥化
 ○伐採木・剪定枝等の有効活用（配布・売却）

○誰もが安心して利用できる公園の改修

○公園の新たなにぎわい創出

○都心部のみどりの増加と価値の向上

○観光事業に対する公園ユニバーサル化推進
 ・バリアフリー化促進（重要度、優先度に基づいて実施）

○公園の新たな管理運営の推進
 ・民間活力による公園の賑わい創出（P-PFI等）
 ・新たな収入源の確保（ネーミングライツ、駐車場有料化等）

○花と緑の都心まちづくりネットワーク事業
 ・都心部のみどりの増加
 ・都心のみどりの景観及び都市の価値の向上
 ・都心部の公園や民有地の広場で地域交流を活性化
 ・都心部でのおもてなし緑化
 ○都心のみどりの緑化方針（公共施設含む）

・ユニバーサルデザインの需要の高まりなど、多様な利用者への対応が求められる。
 ・重要度、優先度に基づいて多目的バリアフリートイレへの改修を進める。

・管理運営や公園施設の老朽化、利活用の推進など、様々な課題に対応し解決していくために、民間活力によるにぎわいの創出などを検討する。

4

にぎわいや憩いの

創出に寄与するみどり

◆市民だけでなく観光客も安心して利用できる公園づくりを進めます。
 さらに民間活力の活用による新たな賑わい創出など公園の特色を生かした魅力づくりを図ります。